

大阪市役所医師会報

発行 大阪市役所医師会 〒540-0008 大阪市中央区大手前2丁目1-7 大阪赤十字会館6階 (一財)大阪市環境保健協会内 TEL (06)4792-7070

No. 136 2017(平成29年)11月

巻頭の言

～ ◎よりも△を目指そう ～

大阪市役所医師会会長 田中正博

大阪市役所医師会会員の皆さまへ 8月26日土曜日に総会と学術集会が開催されました。100名を超える会員のご参加をいただき、ありがとうございました。また学術集会で発表していただいた先生方、準備をしていただきました学術委員会の皆さま、協力してくれた研修医の諸君、お疲れ様でした。

学術集会の一般演題は11題の応募がありました。優秀賞は厳正な審査の結果、「大阪市3歳児健診におけるう歯と育児環境との関連」を発表していただいた寺川由美先生(大阪市保健所)のグループに決まりました。副賞として金一封をお渡ししました。



●今号の 主な内容

巻頭の言	1頁
平成29年度大阪市役所医師会学術集会報告	4頁
学術集会プログラム 優秀演題抄録	
学術集会特別講演	10頁
平成29年度総会記事	13頁
総会議事録 平成28年度事業報告 平成29年度事業計画	
代議員会議事録(4～9月分)	16頁
大阪市役所医師会代議員名簿	22頁
大阪市役所医師会役員・委員会組織表	23頁
お知らせ・編集後記	24頁

今年の特別講演は国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科杉本真樹准教授の「人を動かすプレゼンテーションの秘訣： インセンティブプレゼンテーション」でした。要旨がこの会報にも収録されています。わかりやすく人を引きつけるプレゼンテーション（学会発表）はどうすればよいか？ 目から鱗のわかりやすい講演で、さっそく次からの発表の役に立ちそうです。杉本先生の本を読んで自習することも可能ですが、杉本先生のプレゼンテーションを実際に体験することが一番役立つと感じました。今回惜しくも聴講できなかった会員のために、女性医師の会が平成30年1月13日（土）に2回目の講演を企画しています。こちらもぜひご注目ください。

来年度の学術集会にも引き続き魅力的な特別講演を予定します。お呼びしたい講師や聴きたい講演の希望がありましたら、代議員までご連絡ください。また大阪市役所医師会活動への多数のご参加をお待ちしています。

さて、大阪市や大阪市民病院機構には 人事評価制度という制度があります。年間の目標を自分で設定し、達成度に応じて◎非常によくできました。○よくできました。△目標には到達せず。×目標に大きく届かなかった。というイメージでしょうか。一般企業の営業部門であれば、売上高や契約件数という数値目標が設定できます。製造業では生産個数（台数）、不良品率低減、納期達成率などの数値目標が考えられます。一方医療（医師）部門、行政部門ではまず目標設定がしにくい。設定できたとしても、数値化しにくいので客観的な評価がしにくい。要するに我々には向いていないシステムと考えていました。

この人事評価・目標管理についてトヨタ自動車 豊田章男社長が興味深い発言をされています。長くなりますが、ぜひ読んでいただきたいので、引用させていただきます（以下はプレジデントオンライン 2016.9.13 <http://president.jp/articles/print/20121?page=1> より引用）。

豊田社長がトヨタという会社の体質を変えるために着手したのは組織改革と評価システムだ。

「成功したことだけを評価すると、誰も失敗をしたくなくなります。だから私は、打席に出たらまずバットを振れと言うんです。振った三振には、きちんと『ナイスストライ！』と声を掛けてあげる体制がなくてははいけません。振らないで見逃し三振はダメ。それよりも、勇気を持ってバットを振ったことを評価するシステムが必要なのです。

トヨタ社内には『方針シート』と呼ばれる自己申告型の目標設定用紙がありますが、これは自分で目標設定をして、後で本人が自己評価します。そうすると自己採点が5段階の一番上である◎に集中するのです。しかし、◎を取るためにイージーな目標設定をして達成したと言われても、全トヨタにとっては全くプラスにはなりません。だから私は今、一生懸命社員に言って回っているのです『意欲あふれるナイスストライで、価値ある△を取れ』と。△というのは5段階の真ん中なのですが、やりがいのある目標設定をしたら、そう簡単に◎を取れるわけがありません。大失敗は困りますが、難易度の高い目標を定めて、最低限△で止められるような工夫をすることは、極めて価値が高いと思いますね」

この意識はトヨタが2015年に打ち出した「もっといいクルマづくり」というコンセプトにもつながっていく。良い評価を得たい人は、売れるクルマにばかり関与したがる。一方で売れるクルマは、実績をベースに求められる機能がハッキリしており、ユニークで面白いクルマ、新しいコンセプトのクルマが生まれにくい環境につながっている。これまでの評価方法では、例えばスポーツタイプのクルマの開発に関わっても、売上や利益に対する貢献は小さいため、社員のキャリアにプラスにならない部分があった。しかし、意欲的なナイスストライを評価する制度が確立されれば、新しい物をやってみようという意欲が生まれるはず、ということだ（引用以上で終わり）。

皆さん、いかがでしたか。安易に◎をつけていた自己評価は、実はあまり意味がなかった、いやむしろよくなかったのです。レジデントや研修医には人事評価制度がありませんが、自分のために年間目標などを立てることはあると思います。自分自身を高めるために、組織のレベルを高めるために、今日からは自信を持って△を目指しましょう。

大阪市役所医師会学術集会報告

大阪市役所医師会学術委員長 依 藤 亨
(大阪市立総合医療センター小児代謝・内分泌内科)

平成29年度の第55回大阪市役所医師会学術集会は、例年通り8月の最終土曜日、平成29年8月26日に大阪市立総合医療センター「さくらホール」で開催しました。本年度は特別講演関連事務について金本巨哲先生、一般演題の座長選定や優秀演題の選定を西口幸雄先生が中心になって行っていただき、また学術委員の先生方にも例年より多くの作業をお願いしましたが、皆様の協力でなんとか無事終了することができたことを感謝申し上げます。参加者数も108名を数え、盛会だったと思います。

本年度も大阪市役所医師会所属の各部門が力を入れて行っている「当部門のstate-of-the-art」をキーワードとして、日頃かかわりの少ない他部門の現況を知ってもらえる会といたしました。その結果、一般演題には11題のご応募を頂き、特別講演1題と合わせて12題での開催となりました。一般演題筆頭演者の所属内訳は、総合医療センター9題、大阪市保健所2題となりました。内容的にはそれぞれの演題は力のこもったもので、他分野の人間としても聴きごたえのある演題が並びました。座長は西口幸雄先生、澤田好伴先生、小西啓夫先生にお願いし、会場の設営と会の運営に関しては、例年通り臨床研修医の先生方に手伝っていただきました。お手伝いいただいた先生方にはこ

の場を借りて感謝いたします。

特別講演は、例年とやや趣向をかえて、国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究所杉本真樹先生に「人を動かすプレゼンテーションの秘訣:インセンティブプレゼンテーション」というタイトルでご講演いただきました。医療の世界では、従来スライドの片隅に演者が立ってポインターで画面を指しながらお話しするスタイルが定着していますが、最近小研究会を中心に演者が演台の真ん中に立って、聴衆をみながらTED風の講演をするスタイルが現れつつあります。杉本真樹先生はそういった新しいスタイルで聴衆を引き込む講演の第一人者で、聴衆も大きなインパクトを受けたように思います。私自身も講演のやり方についていろいろ考えさせられました。新しい時代の訪れを感じさせてくれた講演だったと思います。

今回も一般演題の中から選考委員会の審査により優秀な発表を選考し、優秀賞を授与しました。今回優秀賞は大阪市保健所の寺川由美先生による、「大阪市3歳児健診におけるう歯と育児環境との関連」でした。寺川先生にはこれを機に今後さらに研究の発展に努力して頂けるよう期待しております。次年度以降も、会員の先生方の活発なご参加を期待して、報告に代えさせていただきます。

第55回 大阪市役所医師会学術集会プログラム

平成 29 年 8 月 26 日（土） 於：大阪市立総合医療センター さくらホール

開会の辞 大阪市役所医師会長

大阪市立総合医療センター 放射線腫瘍科 田中正博

一般演題（口演7分、質疑3分）

【セッション1】 座長 大阪市立総合医療センター 消化器外科 西口幸雄

(1) 乳癌腋窩リンパ節転移陽性例における術前化学療法後のリンパ節転移遺残予測
～腋窩リンパ節転移陽性例での腋窩郭清省略に向けて

大阪市立総合医療センター 乳腺外科

○渡部智加、池田克実、亀井佑梨、小川佳成

(2) 高齢者結腸直腸癌患者に対する腹腔鏡手術の検討

大阪市立総合医療センター 消化器外科

○出口惣大、西居孝文、白井大介、飯田優理香、櫛山周平、田嶋哲三、木下正彦、
濱野玄弥、三浦光太郎、浦田順久、西尾康平、村田啓洋、高台真太郎、櫻井克宜、
日月亜紀子、玉森 豊、久保尚志、清水貞利、金沢景繁、井上 透、西口幸雄

(3) 肝硬変併存肝細胞癌に対する腹腔鏡下肝切除術

大阪市立総合医療センター 肝胆膵外科 消化器外科

○濱野玄弥、金沢景繁、井上 透、清水貞利、久保尚士、玉森 豊、日月亜紀子、
高台真太郎、櫻井克宜、西居孝文、村田哲洋、西尾康平、浦田順久、木下正彦、
西口幸雄

【セッション2】 大阪市保健所 澤田好伴

(4) 小児不整脈アブレーション治療における Fluoroscopy image integrated 3D mapping system を用いた医療被ばくの低減

大阪市立総合医療センター小児医療センター 小児不整脈科¹⁾

大阪市立総合医療センター小児医療センター 小児循環器科²⁾

近畿大学小児科³⁾

- 吉田葉子¹⁾、鈴木嗣敏¹⁾、押谷知明²⁾、數田高生²⁾、中村香絵²⁾、川崎有希²⁾、
江原英治²⁾、村上洋介²⁾、中村好秀^{1,3)}
- (5) 市民病院遺伝子診療部のあり方を求めて：大阪市立総合医療センターの試み
大阪市立総合医療センター 遺伝子診療部
○川北理恵、松田佳子、渡邊通子、玉川信吉、田原三枝、中村博昭、依藤 亨
- (6) 大阪市3歳児健診におけるう歯と育児環境との関連
大阪市保健所¹⁾
大阪市こども青少年局²⁾
○寺川由美¹⁾、稲田 浩¹⁾、辻 ひとみ¹⁾、井村元気¹⁾、池宮美佐子¹⁾、李 和幸¹⁾、
田端信忠¹⁾、吉田英樹¹⁾、今井龍也²⁾
- (7) 大阪市内病院等に対する災害時対応状況に関するアンケート調査結果の報告
大阪市保健所
○中山浩二、吉野祥一、大仲博之、中川裕子、吉田英樹
- 【セッション3】 座長 大阪市立総合医療センター 腎臓高血圧内科 小西啓夫**
- (8) 妊娠糖尿病に対する自己血糖測定保険適応拡大後の変化
大阪市立総合医療センター 糖尿病内科
○飯田宏美、福本まりこ、細井雅之
- (9) 甲状腺疾患に対するラジオアイソトープ (RI) 治療
大阪市立総合医療センター 内分泌内科
○金本巨哲、山上啓子
- (10) 進行がん患者における血中 C-reactive protein 値のバイオマーカーとしての意義の
検討
大阪市立総合医療センター 緩和医療科
○天野晃滋、宮本二郎、宇野光昭、片山博文、多田羅竜平

(11) 常染色体優性多発性嚢胞腎における resistive index 測定意義の検討

大阪市立総合医療センター 腎臓高血圧内科¹⁾

香川大学医学部薬理学²⁾

- 森川 貴¹⁾ 濱田真宏¹⁾、北林千津子¹⁾、竹内由佳¹⁾、長辻克史¹⁾、一居 充¹⁾、大
山崎大輔²⁾、西山 成²⁾、小西啓夫¹⁾

特別講演

座長 大阪市立総合医療センター 内分泌内科 金本巨哲

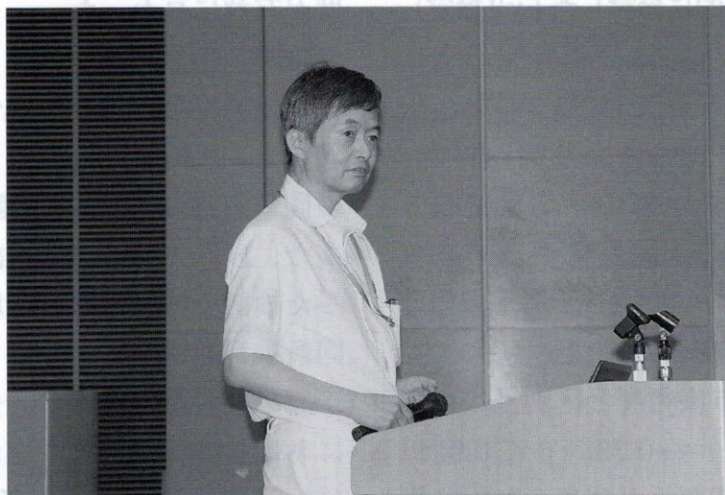
「人を動かすプレゼンテーションの秘訣：
インセンティブプレゼンテーション」

国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 杉本真樹 先生

講評・優秀演題発表 審査委員代表

閉会の辞 学術委員会委員長

大阪市立総合医療センター 小児代謝・内分泌内科 依藤 亨



学術委員長の依藤亨先生

大阪市3歳児健診におけるう歯と育児環境との関連

大阪市保健所¹⁾

大阪市こども青少年局²⁾

○寺川由美¹⁾、稲田 浩¹⁾、辻 ひとみ¹⁾、井村元気¹⁾、池宮美佐子¹⁾、李 和幸¹⁾、
田端信忠¹⁾、吉田英樹¹⁾、今井龍也²⁾

【目的】 乳幼児母子に対する効果的な保健指導と育児支援に資することを目的に、大阪市における3歳児健診受診者のう歯と育児環境との関係を検討した。

【方法】 大阪市における平成26年度の3歳児健診受診者の内、う歯を有する児の頻度(う歯頻度)を区別に検討した。また、区別う歯頻度と各区の平均世帯収入、母乳栄養頻度、市民税との相関を検討した(Pearsonの相関係数)。次に平成27年奇数月にN区で行われた3歳児健診受診者を対象に、質問票と診査票からう歯の有無、口腔内状態、予防接種、子育ての状況や生活習慣について統計学的に検討した(χ^2 検定)。

【結果】 平成26年度3歳児健診受診者におけるう歯頻度はN区では25.3%で、大阪市全体における18.9%より高かった。各区のう歯頻度は、区別の平均世帯収入との間に有意な負の相関関係が認められた($r = -0.71$, $p < 0.001$)。区別う歯頻度と区別母乳栄養頻度との間($r = -0.69$, $p < 0.001$)、区別う歯頻度と区別平均市民税納付額との間($r = -0.73$, $p < 0.001$)にも有意な負の相関関係が認められた。平成27年奇数月のN区3歳児健診受診者は217名で、この内「う歯あり」が47名(21.7

%、「う歯なし」が170名(78.3%)であった。3歳までに受けるべき予防接種(自己負担なし)が完了していない児では完了している児と比較して、う歯頻度が有意に高かった($p < 0.01$)。指定の健診日に来所せず、呼び出して来所した児では、通常の来所者と比較し、う歯頻度が有意に高かった($p < 0.02$)。歯科受診した経験ありの児($p < 0.001$)、歯の汚れありの児($p < 0.001$)、間食の時間を決めていない児($p < 0.01$)、母親の出産時年齢が22歳未満の児($p < 0.001$)、保護者に育児協力者がいない児($p < 0.01$)はそうでない児と比較し、う歯頻度が有意に高かった。

【考察】 今回の調査で、大阪市24区の各区う歯頻度と、各区母乳栄養頻度や各区平均収入、平均市民税額など社会経済指標との間に有意な負の相関関係が認められた。また、N区での3歳児健診受診者を対象とした検討では、予防接種歴、健診呼び出し回数、育児協力、母親の年齢とう歯の関連が認められた。う歯の発生は乳幼児の家庭における養育状況と関連があり、その背景には社会経済的要因が考えられた。今後、う歯リスクが高い児に対し、多面的かつ丁寧な育児支援が望まれる。



優秀賞を受賞された寺川由美先生



優秀賞を発表する西口幸雄先生

「人を動かすプレゼンテーションの秘訣」

国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 准教授

杉本真樹^{先生}

日本の医師にとって、よいプレゼンテーションとは何でしょうか？客観的なデータや調べ上げた過去の論文の引用ばかりでは、退屈で自己満足なプレゼンテーションになってしまいがちです。一方、最近ではテレビや雑誌の影響などもあって、派手にデコレーションを加えたスライドや、オーバーアクションなスピーチを真似ているだけの、かっこつけたプレゼンも散見されます。これらはどちらも、聞き手の求めるプレゼンではないことが多いのです。観衆にとってその内容やプレゼンターの思い、熱意や社会的意義に賛同し、一步を踏み出そうと動いて始めて、プレゼンテーションは観衆への「プレゼント」になるのです。

こんな人を動かすプレゼンテーションの秘訣をご紹介します。欧米をはじめとした社会的・経済的成功者の多くは、プレゼンテーションを有効活用し、良質のコミュニケーションから相手のモチベーションを促し、社会的価値へのアクションに繋がっています。一般社会人の研修やビジネス作法においてもすでにプレゼンは、

重要なスキルの一つとされています。学校教育でも授業や教材にプレゼンが取り入れられ、その仕方から議論の展開、行動を促す方法などを自ら考えさせるようになってきました。

医療の領域でも、プレゼンは単なる情報の提示のみでなく、聞き手との議論を共有し、理解、納得を得るものであるべきです。プレゼンで語られる知識、情熱、新しい観点などが、聞き手の知的好奇心を満たすことができれば、想いは伝わりインセンティブ（動機付け）となって第三者へと共感が拡散します。これはさらに新たな衝動を誘発し、大きなムーブメントに繋がります。

それには聴衆の目線に立つことが重要です。どんなに優れた研究や発表内容であっても、まず人に伝わり、行動を促せなければ価値がないのです。つまりプレゼンは発表の場だけで完結せず、その後の観衆とのコミュニケーションそのものなのです。そのためには、普段の対話から、自分と相手の共感が起こるような思考をもっておく事が重要です。例えばチーム医療の現場での他職種との連

携を図るときや、患者家族への説明同意の際に、医師が当たり前のように気をつけている、あの態度なのです。つまり自分の考えを相手に伝え、その人たちの心を動かす必要があるのです。人を動かすには、報酬や罰で縛るのではなく、本人の内から湧き出る意欲をかき立てることが重要です。この意欲によって人は知的好奇心を満たし、責任感を充足できるのです。本来の意味でのインセンティブ（動機付け）が、人を動かすのです。

もしあなたがプレゼンテーションで人を共感させ、衝動を起こすことができれば、人が自主的に自らの成長を目標とすることができ、共にメリットを生み出すゴールを目指せる

関係を築くことができるのです。これを私は、“インセンティブプレゼンテーション”と呼んでいます。このちょっとしたコツを普段から意識して身につけていることで、いつでもどこでも、自己表現の場がどんどん広がっていきます。

プレゼンそのものは、“目的”でも“ゴール”でもありません。“プレゼン思考”を持って自分の想いを伝えることができれば、本当に「人に伝わる、人を動かす」ことができ、そこにこそプレゼンテーションの意味があるのです。コミュニケーション通じて共感を衝動へ導く、インセンティブプレゼンテーションをマスターし、人を動かす旅への第一歩を踏み出しましょう。

参考文献

1. 杉本真樹：医療者・研究者を動かす インセンティブプレゼンテーション. 1-192, KADOKAWA/アスキー・メディアワークス, 東京, 2014
2. Garr Reynolds(著), 熊谷 小百合(翻訳):プレゼンテーションZEN 第2版. 1-336, 丸善出版, 東京, 2014



特別講演講師

国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 准教授 杉本真樹先生



大阪市役所医師会 平成29年度総会・学術集会議事録

日時：平成29年8月26日 総会：午後1時30分～午後1時45分
学術集会：午後2時～午後5時40分

総合医療センター さくらホール

参加者総数 108人（会員68人・非会員40人）

総会

開会、議長指名

- 【司会】 司会をする中西総務委員長より総会を開催する発言あり。
議長選出について、司会が澤田副会長を指名し、出席者総意により承認する。

議長着席

- 【議長】 会長へ開会の辞を求める。
【会長】 開会の辞
【議長】 会長に議案の説明を求める。
【会長】 議案説明
1 代議員の交代について
2 平成28年度事業報告及び決算について（事務局より）
3 平成29年度事業計画及び予算について（事務局より）
【議長】 議案に対して意見を求めるもとくに発言なし
【議長】 特に異論がないので、議案1、2については承認。28年度決算、及び29年度予算については、原案どおり可決することといたします。
本日はこれにて総会を終了します。
【司会】 引き続き、2時から学術集会に移る旨の発言ある。
総会への協力への謝辞を述べる。

平成28年度事業報告

1. 総務委員会

- 新研修医ウェルカムパーティ参加 平成28年4月2日
- 大阪市役所医師会総会
総合医療センターさくらホール 平成28年8月27日
- 5大学医師会、府庁医師会との懇談会 平成28年12月1日
- 各月 大阪府医師会郡市区等医師会長協議会に参加

2. 学術委員会

- 大阪市役所医師会学術集会開催
総合医療センターさくらホール 平成28年8月27日
演題：14題
特別講演：「腸内フローラ」の腸！いい話
(慶応義塾大学医学部 腎臓内分泌代謝内科 伊藤 裕 先生)

3. 広報委員会

- 大阪市役所医師会会報誌発行 (133・134号)
- ホームページ更新

4. 男女共同参画委員会

- 女性医師の会補助
- 会報発行 (16・17号)
- 女性医師の会総会 平成28年3月25日
- 女性医師の会講演会 平成28年3月25日

5. 勤務条件等検討委員会

6. 講演会開催等

- 主催 ◎大阪市役所医師会 産業医研修会 平成28年10月22日
- 後援 ○大阪総合病院精神医学研究会 第2回学術総会 平成28年5月28日
- 後援 ○第1回病院勤務の医療従事者に対する認知症対応力向上研修 平成28年10月5日
- 後援 ○総合医療センター市民公開糖尿病ゼミナール 平成28年11月2日
- 後援 ○十三市民病院健康フェスタ 平成28年11月11日
- 後援 ○第8回大阪市認知症医療福祉専門職研修 平成28年12月11日
- 後援 ○第2回病院勤務の医療従事者に対する認知症対応力向上研修 平成29年1月13日
- 後援 ○第3回病院勤務の医療従事者に対する認知症対応力向上研修 平成29年2月24日

7. 保健衛生委員会

8. 大阪市医学会との連携

- 大阪市医学会会長賞協賛
- 医学会会費負担

9. すこやかパートナー活動

10. 大阪市救急医療事業団との連携

11. 寄付等

- 熊本大地震被害救援活動支援金寄付
- 日本WHO協会賛助会員

平成29年度事業計画

1. 総務委員会
 - 大阪市役所医師会総会
 - 大阪府医師会との連携強化
 - 5大学医師会、府庁医師会との連携強化
 - 他大阪市関連医療機関等との連携強化
 - 事務局経費
2. 学術委員会
 - 大阪市役所医師会学術集会開催
 - 大阪府医師会学術集会参加
3. 勤務条件等検討委員会
 - 勤務条件等検討
4. 男女共同参画委員会
 - 女性医師の会補助
 - 会報作成他
 - 大阪市女性医師ネットワークとの連携強化
5. 広報委員会
 - 大阪市役所医師会会報誌発行
 - ホームページ更新
6. 保健衛生委員会
 - 市民公開講座等への後援他
7. レジデント研修医委員会
 - 講演会・研修会補助
 - 研究支援等
8. 大阪市医学会との連携
 - 大阪市医学賞協賛
 - 会費負担
9. 講演会協力
 - 各学術講演会等後援・協賛
10. すこやかパートナー活動
11. その他
 - 代議員会
 - 理事会

大阪市役所医師会 平成29年4月代議員会議事録

と き：平成29年4月25日（火） 午後6時30分～7時00分

ところ：総合医療センター3階 さくらルーム

出席者：田中正博 澤田好伴 志村雅彦 依藤 亨 出雲谷恭子
細井雅之 撫井賀代 山口利昌 金本巨哲 村田佳津子
原 純一 古塚大介 鈴木真司 吉野祥一 栗原敏修
國吉裕子 田中政宏（17名） 木幡利至朗（事務局）

委任状提出：愛場庸雅 船本仁一 西口幸雄 平林 円 森 秀夫
根引浩子 稲田 浩 山田明子 河田 弘（9名）

1. 委員会報告

- ・会長報告
- ・各委員会報告
 - 総務委員会
 - 男女共同参画委員会
女性医師の会ウェルカムパーティ報告
 - 広報委員会
次会報発行について
ホームページの会員パスワード変更について
 - 学術委員会
学術集会の特別講演について

2. 議題

- ・28年度決算見込について
- ・代議員組織について
- ・男女共同参画フォーラムについて
- ・会報の複製許諾について
- ・その他

次回開催予定 5月25日（木）午後6時30分より

大阪市役所医師会 平成29年5月代議員会議事録

と き：平成29年5月25日（木）午後6時35分～7時05分

と ころ：総合医療センター3階 さくらルーム

出席者：田中正博 澤田好伴 志村雅彦 依藤 亨 出雲谷恭子 中田 香織 出
撫井賀代 根引浩子 山口利昌 清水貞利 神吉理枝 山口西
鈴木真司 栗原敏修 田中政宏（13名） 菅日本金 橋元本金
木幡利至朗 山下直子（事務局）

委任状提出：愛場庸雅 船本仁一 中西亜紀 平林 円 森 秀夫 出野邦彦
稲田 浩 金本元勝 金本巨哲 村田佳津子 吉野祥一（10名）

1. 委員会報告

・会長報告

学術集会の託児サービスについて

・各委員会報告

○総務委員会

○広報委員会

会報135号発行について

ホームページの会員パスワードについて

○学術委員会

学術集会の生涯学習申請について

2. 議題

・病児保育について

・弔意内規について

・その他

受動喫煙防止対策の署名活動について

次回開催予定 6月27日（火）午後6時30分より

大阪市役所医師会 平成29年6月代議員会議事録

と き：平成29年6月27日（木） 午後6時30分～7時00分

と ころ：総合医療センター3階 さくらルーム

出席者：田中正博 澤田好伴 志村雅彦 出雲谷恭子 根引浩子 中田：香濃出
西口幸雄 村田佳津子 細井雅之 神吉理枝 鈴木真司 共懸
金本元勝 金本巨哲 栗原敏修 田中政宏 國吉裕子（15名）
木幡利至朗 山下直子（事務局）

委任状提出：愛場庸雅 船本仁一 森 秀夫 平林 円 稲田 浩
古塚大介 撫井賀代 中田真一 吉野祥一 清水貞利
中西亜紀（11名）

1. 委員会報告

・会長報告

受動喫煙防止の署名について

・各委員会報告

○総務委員会

○広報委員会

○男女共同参画委員会

女性医師の会会報発行予定について

○学術委員会

特別講演講師について

国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 准教授 杉本真樹先生
講演 「インセンティブプレゼンテーション」

2. 議題

- ・後援名義について
- ・病児保育について
- ・その他

次回開催予定7月27日（木）午後6時30分より

大阪市役所医師会 平成29年7月代議員会議事録

と き：平成29年7月27日（木） 午後6時30分～7時15分

ところ：総合医療センター3階 さくらルーム

出席者：田中正博 澤田好伴 志村雅彦 出雲谷恭子 根引浩子
神吉理枝 金本巨哲 撫井賀代 吉野祥一 栗原敏修
田中政宏 清水貞利 依藤 亨 原 純一 日浦義和
山口利昌 山田明子（17名） 木幡利至朗 山下直子（事務局）

委任状提出：西口幸雄 愛場庸雅 川崎靖子 中西亜紀 古塚大介
細井雅之 村田佳津子 平林 円 中田真一 金本元勝
河田 弘 森本武志（12名）

1. 委員会報告

・会長報告

・各委員会報告

○総務委員会

○広報委員会

○男女共同参画委員会

女性医師の会会報20号発行について

9/7 市大女性医師ネットワーク懇談会について

○学術委員会

学術集会準備状況報告

2. 議題

・学術集会について

・総会について

大阪市役所医師会 平成29年8月代議員会議事録

と き：平成29年8月22日（火） 午後6時30分～50分

と ころ：総合医療センター3階 さくらルーム

出席者：田中正博 澤田好伴 依藤 亨 志村雅彦 出雲谷恭子
根引浩子 西口幸雄 稲田 浩 撫井賀代 神吉理枝
山口利昌 細井雅之 吉野祥一 國吉裕子 栗原敏修
田中政宏 鈴木真司 金本巨哲（18名）
木幡利至朗 山下直子（事務局）
委任状提出：愛場庸雅 中西亜紀 舟本仁一 古塚大介 日浦義和
川崎靖子 山田明子 原 純一 清水貞利 中田真一
森 秀夫 平林 円 河田 弘（13名）

1. 委員会報告

- ・会長報告
- ・各委員会報告
 - 総務委員会
 - 広報委員会
学術集会関係の原稿依頼について
 - 男女共同参画委員会
女性医師の会運営委員会について
 - 学術委員会

2. 議題

- ・学術集会について
- ・総会について
- ・その他

大阪市役所医師会 平成29年9月代議員会議事録

と き：平成29年9月28日（木） 午後6時30分～50分

ところ：総合医療センター3階 さくらルーム

出席者：田中正博 澤田好伴 出雲谷恭子 西口幸雄 山口利昌
細井雅之 山田明子 吉野祥一 金本巨哲 栗原敏修
日浦義和（11名） 木幡利至朗 山下直子（事務局）

委任状提出：志村雅彦 中西亜紀 金本元勝 稲田 浩 撫井賀代
船本仁一 鈴木真司 依藤 亨 田中政宏 中田真一
村田佳津子 平林 円 森本武志 森 秀夫 國吉裕子
河田 弘（16名）

1. 委員会報告

・会長報告

新専門医制度の登録について

・各委員会報告

○総務委員会

○広報委員会

○男女共同参画委員会

○学術委員会

2. 議題

・総会、学術集会結果について

108人参加、うち会員68人。昨年（104人）より若干増加。

特別講演も好評。女性医師の会の講師として再演を依頼。

・後援等依頼について

・第2回病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修（10/5）

・第9回大阪市「認知症」医療・福祉専門職研修（12/10）

・大阪市立総合医療センター市民公開糖尿病ゼミナール（11/1）

・大阪市立十三市民病院糖尿病フェスタ（11/10）

次回開催予定 平成29年10月24日（火）午後6時30分より さくらルーム

大阪市役所医師会 代議員名簿

(平成29年10月1日現在)

ブロック名	代 議 員 名	人数
総合医療センター	愛場 庸雅 有元 秀樹 奥谷 龍 金本 巨哲 川崎 靖子 川村 直樹 神吉 理枝 清水 貞利 田中 正博 西垣 恭一 西口 幸雄 根引 浩子 原 純一 古塚 大介 細井 雅之 村田 佳津子 森 秀夫 山口 利昌 山田 明子 山根 孝久 依藤 亨 宮市 功典	22
住吉市民病院	英久仁子 舟本仁一	2
十三市民病院	安達 高久 中田 真一 田中 享 日裏 義和 平林 円	5
健康局	撫井 賀代 國吉 裕子	2
保健所、各区保健センター	稲田 浩 澤田 好伴 吉野 祥一	3
こころの健康センター	田中 政宏	1
心身障害者リハビリテーションセンター	河田 弘 鈴木 真司	2
弘済院附属病院	志村 雅彦 中西 亜紀 金本 元勝	3
人事室	出雲谷 恭子	1
教育委員会	栗原 敏修	1
合 計		42

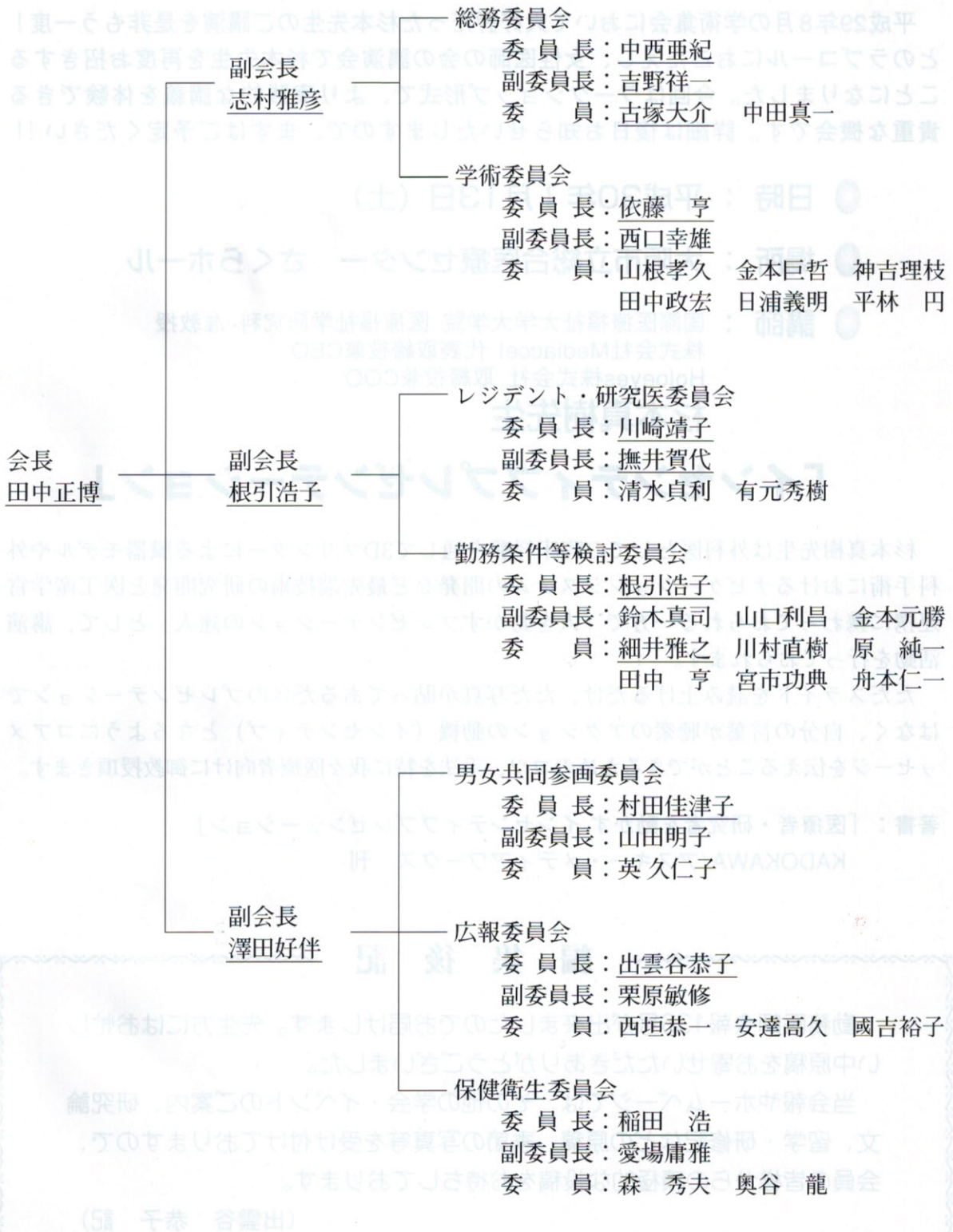
大阪市役所医師会役員・委員会組織表

平成29年10月1日現在 任期：平成30年4月30日

下線は理事

議長：河田 弘

監査委員：大川清孝 横山 連





あの特別講演を再び!!

平成29年8月の学術集会において大好評だった杉本先生のご講演を是非もう一度！とのラブコールにおこたえし、女性医師の会の講演会で杉本先生を再度お招きすることになりました。今回はワークショップ形式で、より実践的な講義を体験できる貴重な機会です。詳細は後日お知らせいたしますので、まずはご予約ください!!

- 日時：平成30年1月13日（土）
- 場所：大阪市立総合医療センター さくらホール
- 講師：国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究所 准教授
株式会社Mediaccel 代表取締役兼CEO
Holoeyes株式会社 取締役兼COO
杉本真樹先生

「インセンティブプレゼンテーション」

杉本真樹先生は外科医としての臨床経験を通して3Dプリンターによる臓器モデルや外科手術におけるナビゲーションシステムの開発など最先端技術の研究開発と医工産学官連携に携わっておられる一方で「人を動かすプレゼンテーションの達人」として、講演活動を行っておられます。

ただスライドを読み上げるだけ、ただ写真が貼ってあるだけのプレゼンテーションではなく、自分の言葉が聴衆のアクションの動機（インセンティブ）となるようにコアメッセージを伝えることができるためのコツ、手法を特に我々医療者向けに御教授頂きます。

著書：「医療者・研究者を動かす インセンティブプレゼンテーション」

KADOKAWA/アスキー・メディアワークス 刊

編集後記

勤務医師会報136号が出来ましたのでお届けします。先生方にはお忙しい中原稿をお寄せいただきありがとうございました。

当会報やホームページでは、その他の学会・イベントのご案内、研究論文、留学・研修記などの原稿、季節の写真等を受け付けておりますので、会員の皆様からの積極的な投稿をお待ちしております。

（出雲谷 恭子 記）